

## 感染症情報 12月5日～12月11日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	3927例(堺市 252例)
②溶連菌感染症	490例(堺市 23例)
③RSウイルス感染症	303例(堺市 17例)
④おたふくかぜ	284例(堺市 8例)
⑤咽頭結膜熱	135例(堺市 6例)

が報告された。

感染症報告数は前週より5.8%増の5,441件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、おたふくかぜ、咽頭結膜熱の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比11%増、堺市では同10%増であった。主な原因はノロウイルスと思われ、国立感染症センターは全国のノロウイルス感染症が近年同時期としては2006年、2012年に次ぐ猛威をふるっているとしている。当科周囲の保育所や幼稚園では収まりつつあるものの、小学校に飛び火してきている印象がある。2位の溶連菌感染症は府下で前週比13%増、堺市で35%増であった。RSウイルス感染症は府下で9%減、堺市で13%増であった。4位のおたふくかぜは府下で22%減、堺市で71%減であった。

インフルエンザは府下で前週比24%増の633例が報告され、堺市では前週24例→今回44例で83%増であった。報告定点あたり前週1.7→今回2.0となっている。マイコプラズマ肺炎の報告数は府下では前週17例から今週42例に、堺市では前週5例であったのが、3例に減った。流行性角結膜炎(はやり目)は府下で前週33例、今回32例で横ばいである。

麻疹の報告はなかったが、風疹が1例あった。